

神田千里先生、白川部達夫先生近影・業績等

雑誌名	東洋大学文学部紀要．史学科篇
巻	45
発行年	2020-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1060/00012149/





白川部達夫先生（近影）

二〇二〇年三月をもって白川部達夫先生が本学をご退職になります。本学文学部史学科に教授として着任されたのは二〇〇二年四月ですから、一八年間にわたり、学部学生・大学院生の教育や研究指導、および自らのご研究に取り組んでこられたことになります。この間、二〇〇八年四月から一〇年三月まで文学部史学科主任、一〇年四月から一二年三月まで大学院文学研究科史学専攻主任などの要職を歴任され、史学科・史学専攻に多大の貢献をされました。全学的にも、二〇一〇年四月から東洋大学学術研究推進センターの副センター長として、また一三年四月からは同センター長として一五年三月まで、本学の学術・研究を組織的に促進するため重責を担ってされました。

先生は一九四九年、北海道のお生まれで、七二年三月に立正大学文学部史学科を卒業、同大学院修士課程修了後に同大学文学部助手となりました。その後、法政大学大学院人文科学研究所日本史学専攻の博士課程に進まれ、九一年に法政大学から博士（文学）の学位を授与されています。それに先立ち、八九年四月から金沢経済大学経済学部にて専任講師として赴任、九一年に助教、九七年に教授に就任されました。こうして、二〇〇二年に本学に着任されます。

一九七〇年代から、先生は精力的に研究を進められ、著書（単著）だけでも、『日本近世の村と百姓的世界』（校倉書房、一九九四年）、『近世の百姓世界』（吉川弘文館、一九九九年）、『江戸地廻り経済と地域市場』（吉川弘文館、二〇〇一年）、『日本近世の自立と連帯―百姓的世界の展開と頼み証文』（東京大学出版会、二〇一〇年）、『近世質地請戻し慣行の研究―日本近世の百姓的所持と東アジア小農社会』（塙書房、二〇一二年）、『旗本知行と石高制』（岩田書院、二〇一三年）、『近世の村と民衆運動』（塙書房、二〇一九年）、『日本人はなぜ「頼む」のか―結びあいの日本史』（筑摩書房、二〇一九年）を出版されています。

本学に着任されてからは、日本近世社会史、民衆史、経済史などのご研究を体系化して続々と著書にまとめられ、この領域の第一人者として学界を牽引してこられました。その土台には、次々と出される実証的な論文があり、着実なお仕事ぶりには、同僚・後進として励まされることが多々ありました。先生の研究への真摯な姿勢とエネルギーはなお盛んで、ご退職後も大いに後進を激励していただけるものと思います。ご健康と、ますますのご活躍を祈念いたします。